

心理学 Can-do リストを用いた教育成果と 自己調整学習方略の関連

○鈴木亜由美・中西大輔・井西野泰代
(広島修道大学健康科学部)

目的

Can-do リストとは、学習者が身につけるべき能力を項目として記述したものである(大澤・中西・岡田, 2005)。本研究では、心理学教育の成果を可視化する指標として開発された心理学 Can-do リスト(中西, 2017)の短縮版を用いて、その得点の学年、性別、入試形態による差を検討した。さらに、Can-do リストの得点と学習者自身の学習過程に対する能動的関与を表す自己調整学習方略(藤田, 2010)との関連を検討した。

方法

調査対象者 広島修道大学健康科学部心理学科および人文学部人間関係学科心理学専攻の1年生から4年生226名(1年生83名, 2年生64名, 3年生40名, 4年生39名; 男性91名, 女性135名)。

調査項目 1. 心理学 Can-do リスト 中西(2017)で作成した51項目から抜粋した24項目について、学生が主観により「できる」程度を7段階で評定。2. 自己調整学習方略 藤田(2010)の18項目を使用。3. 入学試験の形態, 学年, 性別。
手続き 調査は2017年1月から3月にかけて、すべてWeb上(SurveyMonkey)で実施した。心理学の必修科目において回答を呼びかけ、授業時間中または授業時間外に各自で回答した。

結果

1. 心理学 Can-do リストの分析

24項目について、最尤法による探索的因子分析を行った。固有値の減衰状況と解釈可能性から3因子構造を採択して Promax 回転を行い、因子負荷量の十分でない2項目を削除した。Promax 回転後の因子パターン、因子間相関係数を Table 1 に示した。因子1を「基礎」($\alpha=.90$), 因子2を「統計」($\alpha=.90$), 因子3を「研究遂行」($\alpha=.82$)と命名した。入学試験の形態(一般, 推薦), 性別による差は一部を除いて見られなかったため、これらをこみにした学年別の得点と1要因分散分析の結果を Table 2 に示した。

Table 1. 心理学 Can-do リストの因子分析結果

	I	II	III
(21) レポートを定められた書式で書くことができる。	.95	-.14	.01
(23) グラフや表を作成できる。	.93	-.05	-.07
(22) 実験・調査結果の統計量を正しい書式で書くことができる。	.84	.01	.08
(24) 自分の行った実験や調査について考察ができる。	.75	.03	-.09
(20) 和文で書かれた心理学の論文を自分だけの力で読むことができる。	.64	-.02	.17
(14) 文書作成ソフト(Wordなど)、表計算ソフト(Excelなど)の基本操作ができる。	.60	.23	-.15
(16) 質問紙のデータ入力ができる。	.60	.11	-.11
(17) CiniiやPsychINFO、PsychARTICLESなどを用いて研究論文を検索できる。	.50	.06	-.06
(4) 簡単な統計的検定(t検定、相関分析、 χ^2 乗検定など)ができる。	.06	.88	-.17
(6) 相関と因果の区別を説明できる。	-.07	.76	-.01
(5) 分散分析や重回帰分析ができる。	.10	.71	.05
(2) 操作的定義とは何かを説明できる。	-.25	.69	.23
(8) 独立変数と従属変数の違いを説明できる。	.14	.66	-.13
(9) 交互作用の解釈ができる。	-.09	.66	.04
(13) 信頼性と妥当性について説明できる。	-.05	.61	.24
(3) 平均値や分散、中央値など基本的な統計量を説明できる。	.32	.55	-.22
(12) 質問紙法、作業検査法、投影法の特徴を説明できる。	-.09	.52	.26
(15) SPSS, R, HADその他の統計パッケージを使うことができる。	.07	.51	-.02
(1) 実験と調査の区別を説明できる。	.15	.45	.10
(19) 英語で書かれた心理学の論文を自分だけの力で読むことができる。	.02	-.04	.88
(18) 英文の研究論文のアブストラクトを読んで意味を把握できる。	.06	.00	.86
(11) 自分で実験を計画し、実行することができる。	.22	.11	.48
因子間相関		I	.64
		II	.45

Table 2. 各学年における心理学 Can-do の平均得点と SD

	1年(n=83)	2年(n=64)	3年(n=40)	4年(n=39)	F	η_p^2	多重比較
基礎	4.53 (1.17)	4.80 (1.09)	5.54 (0.72)	5.94 (0.62)	22.27	.23	1年, 2年<3年, 4年
統計	4.05 (1.07)	3.99 (1.23)	4.43 (0.95)	4.90 (0.85)	7.51	.09	1年, 2年<4年
研究遂行	2.33 (0.98)	2.45 (1.15)	3.20 (1.35)	4.12 (1.27)	25.22	.25	1年, 2年<3年<4年

2. 心理学 Can-do と自己調整学習方略の関連

自己調整学習方略についても同様に因子分析を行ったところ4因子構造を得た。心理学 Can-do 各因子との相関係数を Table 3 に示す。

Table 3. 心理学 Can-do と自己調整学習方略の相関係数

	努力調整	メタ認知	課題理解	プランニング
基礎	.42**	.28**	.39**	.08
統計	.40**	.29**	.45**	.28**
研究遂行	.21**	.22**	.36**	.20**

** $p<.01$

考察

心理学 Can-do の各因子とも、1,2年生と3,4年生の間に差が見られ、演習クラスでの学習が専門的知識・技能の習得を促進することが示唆された。また自己調整学習方略ともほぼすべての因子で有意な相関が見られた。どの学習方略がより効果的であるかは今後の縦断研究にて検討していく。